

令和5年度 自己評価・学校関係者報告

令和6年3月14日

学) みたけ学園 みたけ幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・ 明るくのびのび
- ・ ひとりでするのを手伝って
- ・ 主体的な活動を共同生活の中で

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ☆ 主体的な活動を促すための環境を整え1人1人の子どもの思いを受け止めて教育の実践を行う
- ☆ 体を動かすことで心身の偏りを調整する。外国語に興味を持つ。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し、主体的な活動ができる環境を整える	A	講師を招き、幼児の主体的な活動について園内研修を行い、9月から午前中を縦割り自由活動にし、午後横割り一斉保育を行った。生き活きと活動ができるように、保育室、園庭の環境を整えた。
2	体操指導が発達に促しているか見直し	A	体操講師の指導のもと、体力、体幹、柔軟性、協調性を養うプログラムを提供し、楽しく体を動かしながら習得する。
3	英語を楽しく学ぶ	A	英語講師の指導のもと、8名以下の小グループで、英語での挨拶、単語、色、数などを体を動かしながら学んだ。見る、聴く、真似るを通して楽しく学ぶ。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	1. 午前中にどんな活動をするか、自ら選べることにより、考える力が養われてきた。園庭で友達と協調しながら遊ぶ。保育室で着席して活動に取り組む経験を重ねるうちに集中力が付き、最後までやり遂げる力が付いた。 2. 発達に応じたプログラム(準備体操、サーキット、ボール遊び)を提供したことにより、体力、体幹、柔軟性、協調性を養うことができた。 3. 体を動かしながら、8名以下で英語学んだことにより、英語を発する回数も多く積極的に吸収できた。VやRの発音では唇や舌の使い方を学び、日本語の発音との違いを感じた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	行事の見直し	行事練習の負担を少なくする。日常で学んだことを、行事に繋げる。
2	幼小接続	年長児は特に物事に集中して取り組み達成感を味わい自らの言葉で表現できる力を育む
3	保育の充実	ねらいの指標をもとに保育計画を行い、振り返ることで発達を促し教育の充実を図る

6. 学校関係者評価委員会の評価

教育課程の見直しが行われ、主体的な活動を保障する環境への配慮を行った。子ども自身の自己実現を援助することになり、内面の要求に沿って行う活動が子ども同士の協力していく姿勢の形成に結び付いたことが評価に値する。

体操指導では、発達に応じた活動が子どもたちを刺激し、外界(他者の動きやアイコンタクト等)を敏感に感じることで、注意力の集中をもたらした。

英語指導では、体を動かして英語のリズム(シラブル)を吸収し、発音においては舌や唇の使い方を知り、外国語に小グループで親しんだことは、幼児英語指導方法として高く評価する。

環境を工夫することにより、自らやりたいという気持ちが引き出され、その結果様々なねらいを個々のペースで獲得していることが評価に値する。

今後の取り組む課題においても、人的・物的環境のどちらも考慮しながら、さらなる保育の充実に向けた取り組みが期待される。